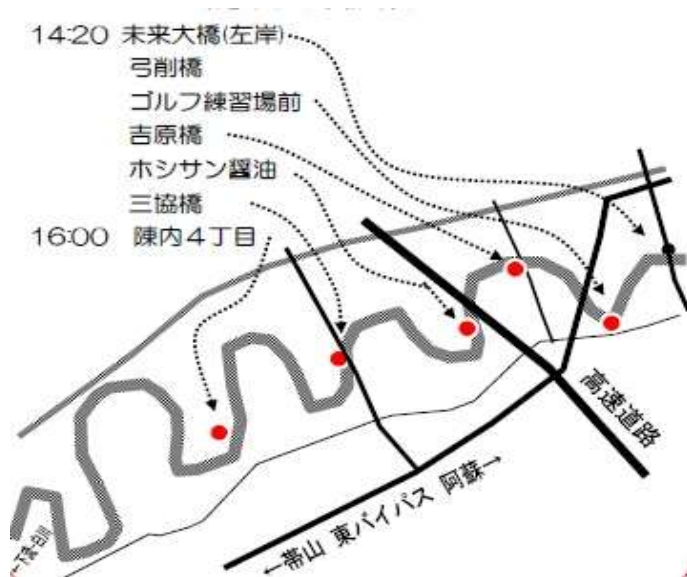


白川改修の現地見学会(熊本県管理区間)未来大橋～陳内4丁目

2018年7月14日

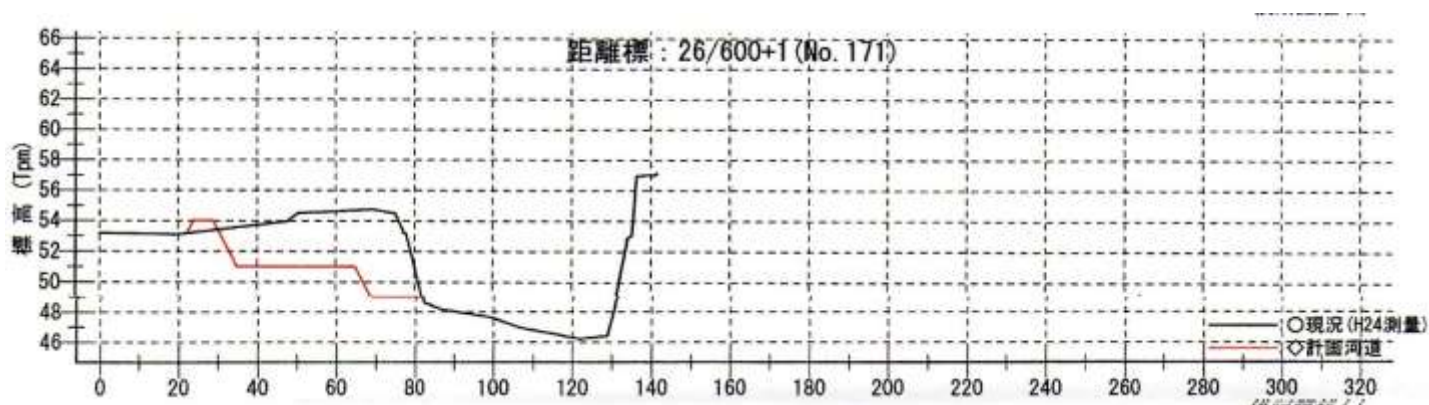
資料作成：立野ダムによらない自然と生活を守る会



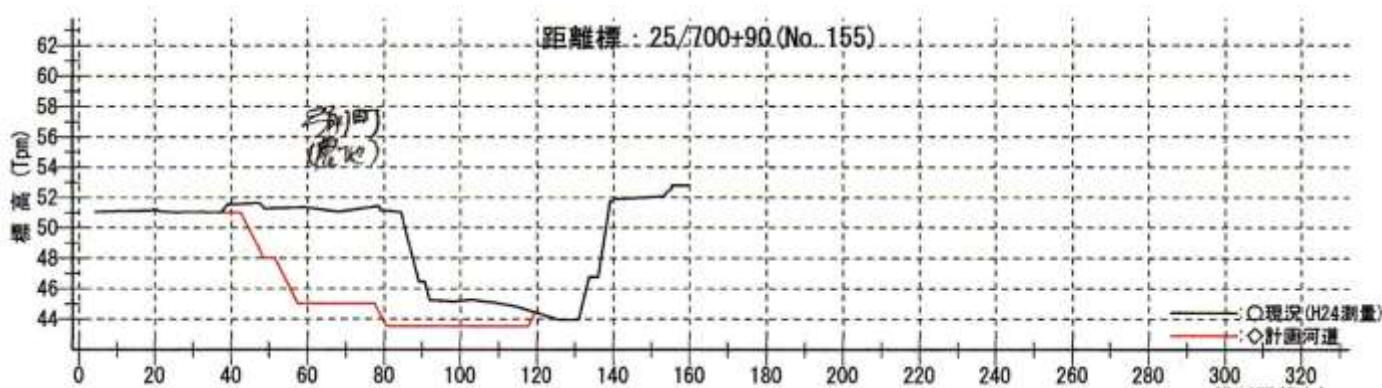
※改修前の流量、改修完成後の流量、河道断面図は、熊本県が開示した資料からの引用です。

※九州北部豪雨(2012.7.12)の最大流量は、毎秒2300トンです。

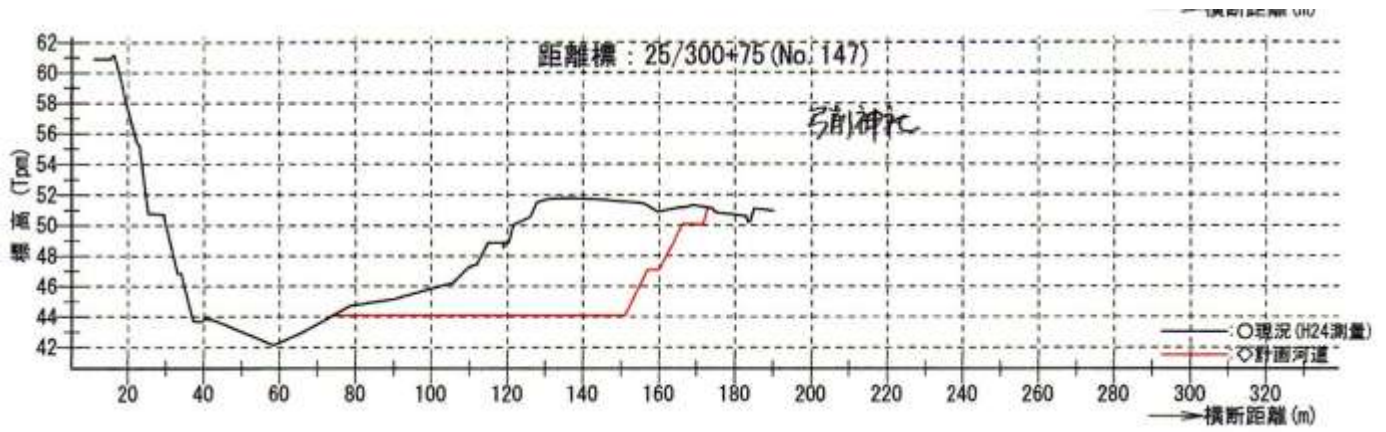
1. 未来大橋下流(左岸)26k600 改修前1559トン/秒 改修後2419トン/秒



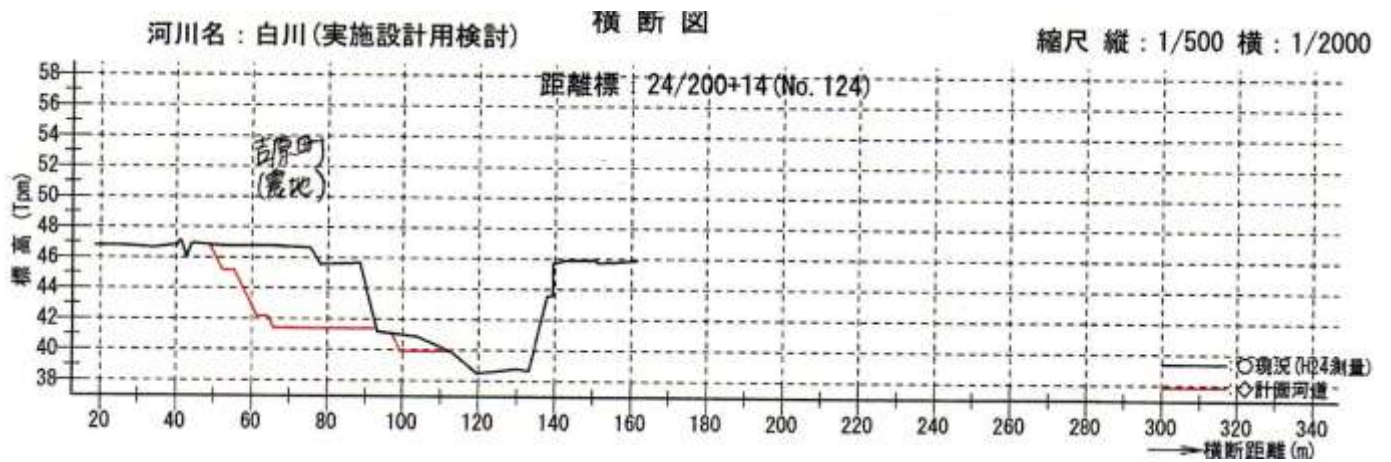
2. 弓削橋下流(左岸)25k800 改修前1470トン/秒 改修後2482トン/秒



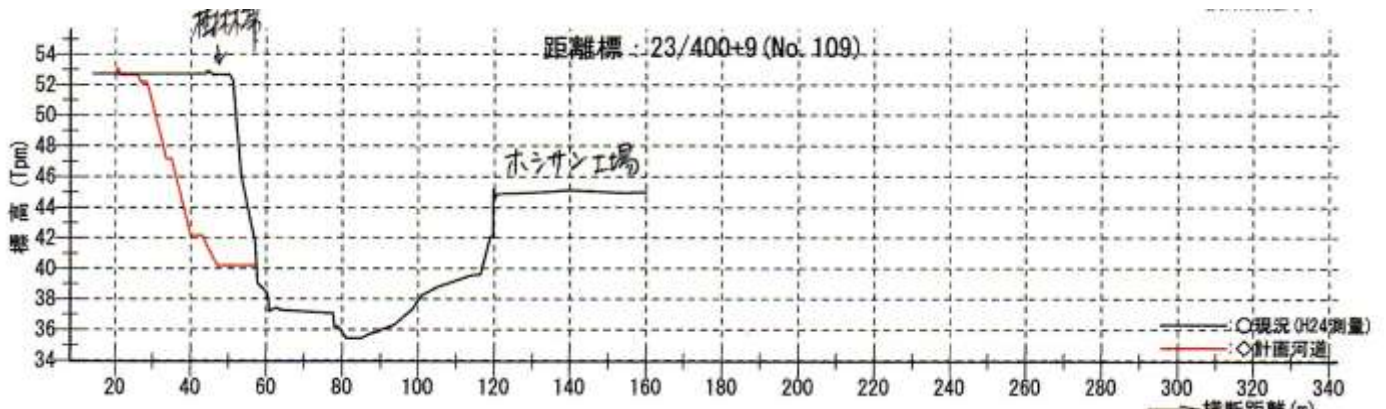
3. 弓削神社(左岸)25k400 改修前1870トン/秒 改修後2044トン/秒



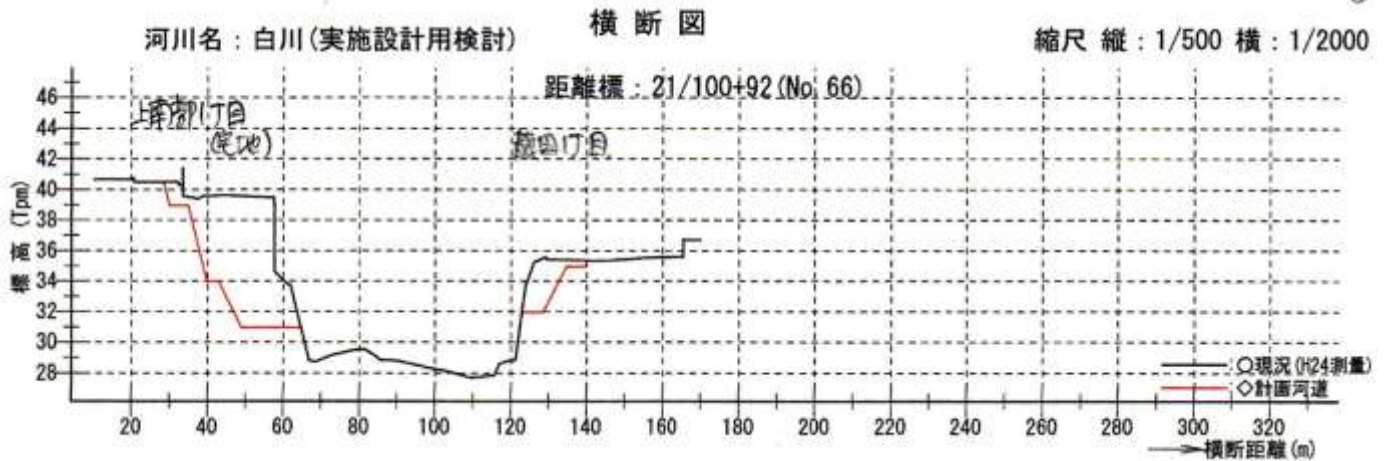
4. 吉原橋下流カーブ(左岸)24k200 改修前1624トン/秒 改修後2808トン/秒



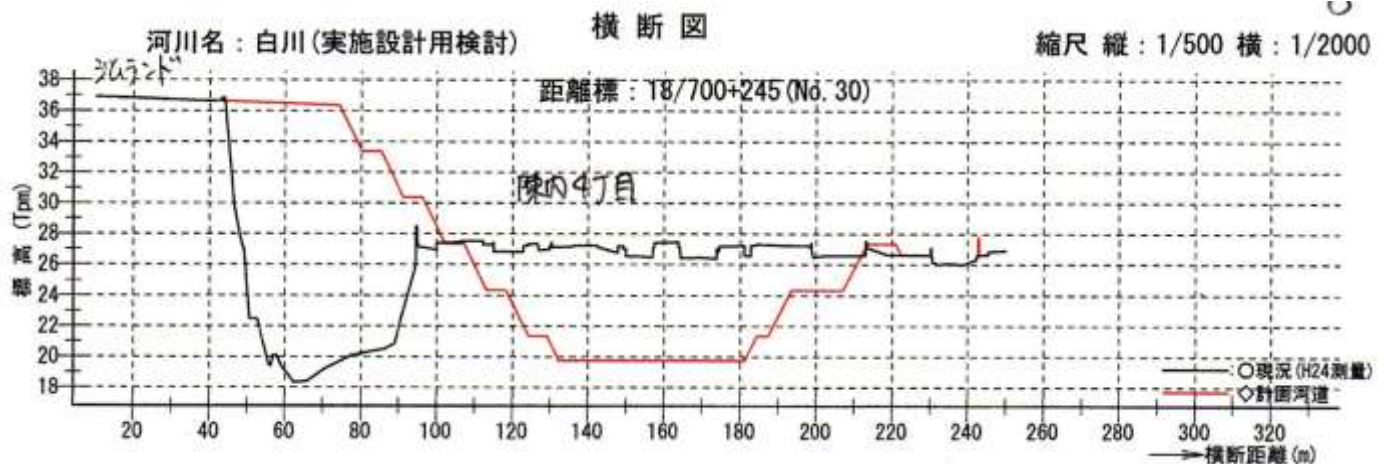
5. ホシサン工場(右岸)23k400 改修前2184トン/秒 改修後3583トン/秒



6. 三協橋下流(右岸)21k200 改修前1766トン/秒 改修後2184トン/秒



7. 陳内4丁目(右岸)19k000 改修前1873トン/秒 改修後2863トン/秒



●まとめ

・河川改修で、九州北部豪雨（毎秒 2300 トン）の洪水が来ても、弓削神社（左岸）以外はあふれない。

●立野ダムは想定以上の洪水に対処できるのか？

「想定外の災害に備えて立野ダムは必要」と考えている人がいるかもしれないが、想定以上の洪水の場合、立野ダムは満水となり、ダムの上部に設けられた8つの穴からダムへの流入量をそのまま放水する。つまり、洪水調節できなくなる。ゲートのない「穴あきダム」である立野ダムの場合は、洪水時にダム下部の穴（幅 5m×高さ 5m）が流木等でふさがった時点で洪水調節できなくなる。

●西日本豪雨災害について

- ①今回の西日本豪雨での甚大な被害の元凶は、土砂災害と流木災害、堤防の決壊である。
- ②今後最も対策が必要なことは、土砂災害対策と流木対策（森林の保全）、堤防の強化である。
- ③愛媛県の肱川上流の野村ダムと鹿野川ダム、京都・嵐山の上流の日吉ダムでは、想定以上の洪水で満水になり、ダムへの流入量をそのまま下流に流すしかなくなり、洪水調節できなくなった。
- ④「想定外」が想定外でなくなり、「〇〇年に一度」という計画規模があてにならなくなった近年の状況では、ダムは洪水調節で有効な選択肢どころか危険である。